

1. 期 日：2013年2月4日(月)
2. 時 間：15:30～17:00
3. 会 場：株式会社日立ハイテクノロジーズ
4. 公 演：宇津木 妙子（プロフィール）

- (1) 1953.4.6 生れ59歳、埼玉県出身
- (2) 1974年最年少で全日本入り、世界選手権第2位
- (3) 日本リーグ3回優勝
- (4) 2000年シドニーオリンピック監督、2004年アテネオリンピック監督
- (5) 2005年世界ソフトボール殿堂入り
- (6) 2009年世界ソフトボール連盟副会長
- (7) ルネサス(旧日立高崎) シニアアドバイザー

5. 講演内容

- (1) 常に物事は原点に帰って考え行動する。
- (2) 企業スポーツは勝つことが目的である。
- (3) 挨拶が大事。
- (4) 大好きなソフトボールが出来ることに心から従業員に感謝する。
- (5) スポーツとは人間形成であり教育が大事である。
- (6) 新年初出社の朝、ソフトボール部員は正門で7:00～8:30まで従業員に挨拶するのが恒例行事。
監督就任以来28年間継続中。
- (7) 高校は監督が全て指導してくれた。
しかし社会人は違う、仕事も含めて自分の考えをプラスさせる事が大事。
- (8) 1972年(昭和47年3月10日)ユニチカ入社、選手生活13年間で引退・退職。
最初の3年間はボール拾い。スピードとパワーの差に驚いた…。
- (9) 1985年(昭和60年11月28日)。日立高崎(現ルネサス)ソフトボール部監督就任。
熟慮の上の決断、当時女性監督は極めて異例であった。父親には『見返りを望むな』、
『自分を犠牲にせよ』との助言。
- (10) 企業スポーツは大変。日立高崎は『魂』がある。
経営環境は厳しいが故に『従業員の為に頑張らねば!』と言うことになる。
- (11) 全日本監督としての方針・経験談
 - ① エリート集団でも『自分勝手、自己中心、怠慢』は絶対に許さない。
 - ② 選手(自分)の良い所を伸ばす。
 - ③ 自分をさらけ出す指導。
 - ④ 選手の出身チームの練習方法・監督の性格、選手の性格、血液型を把握した上で個別指導する。

⑤監督は『言葉』が大事。

言葉一つで選手は『生きるもするし』、最悪『選手生活を閉じる』ことになる。

⑥良い時は人が集まり、悪くなると人は散る。世の常である…。

(12) ソフトボールが大好きだった！メジャーにしたかった！命懸けで取り組んだ。

(13) 日立高崎は従業員全員でソフトボールを応援する環境・風土がある。

(14) 組織は「風通しが悪くなるもの、悶々」とするものと考え対処しなければならない。

(15) NPO法人を立上た。毎年東日本大震災で被災した東北3県に行き支援中。

(16) 人は皆違うので教え方は人夫々。人と真剣に向き合うことが大事。

上司と部下の関係が上手くいっているか…。

(17) 『メリハリ』と『切换え力』が大事。家庭が上手くいけばコミュニティが上手く行き、

会社(組織)も上手く行く。切换え力が不足しているから、出来ないから、変な人間が増えている。

6. 管理人(聴講者)の感想

(1) 歩んで来た道は決して順調ではなく『波乱万丈』、『紆余曲折』、『挫折と再起』の繰り返しであった。一般人ならくじけて『逃げ出してしまう』が、彼女は決してくじけない『人間の根っこの部分に強い心』を持っている。

(2) ある道を極めた人の話は『説得力と迫力』があり、つい時間を忘れ引き込まれてしまう魅力がある。大変有益であった。他の著名人の話もそうだが『人間力』と『強いエネルギー』を感じパワーを与えてもらった様な気がする…。

(3) スポーツを中学・高校・社会人とレベルは全く違うものの、志した者として非常に共感できる部分が多かった。誰もなれる存在ではなく、素養、努力、運が揃わないと成し得ない功績と感じた。

(4) これは神様が選んだ人間に生まれ持った才能を与え、世の中の人の為に尽くすように『宿命』を与えたのではないかとさえ思えた。

(5) 現代人にとって『人と真剣に向き合う』ことが非常に難しい世の中だと思うが、少しでも近づくように心がけたい。